長洲町立長洲小学校　校長便り　No.９１

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年5月１８日(木)

役立つ名言

歴史に名を残した人の名言は、現代社会を生きる私達にも多くの示唆を与えてくれるものですね。次の言葉は山本五十六の言葉です。

やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば、人は動かじ。
話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。
やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず。

この名言の中の「人」の部分を置き換えると面白いですよ。学校現場では「児童・生徒」あるいは「教職員」と置き換えると…、家庭に於きましては「我が子」…。何にでも置き換えることが出来そうですね。ということは、「人材育成」はこの視点に立って展開されると良さそうです。最終的には人を実らせなければなりませんので、何でもかんでも経験者が「あれしろこれしろ」ではだめです。褒めて、任せて、信頼して導くこと、そして待つことができる人間になりたいものです。

多くの「道」には、「守破離」という、教えがあります。人の成長もまさに「守破離」です。まずは真似て、基本を破り、師を離れ、自分自身を磨くのですね。そういう姿を見守ってくれる「師」と出会うのも重要です。

【雑感】内面を磨けば外面も光る

皆さん、「エンツォ・フェラーリ」という車を知っていますか。フェラーリと言えばだれでも知っていると思いますが、一応聞いてみました。フェラーリという自動車メーカーがイタリアにあって、その創始者の名前がエンツォ・フェラーリなのですが、その創始者の名前が車の名前になっているのです。ということはこの車にはメーカーとしての並々ならぬ強い思いが込められていることは容易の想像できます。エンツォ・フェラーリは、創業55周年を記念する限定生産車の名前であり、同時にフェラーリの創業者の名前でもあります。創業者の名前を冠し、記念碑的な意味合いを持つこの「エンツォ・フェラーリ」は、ある意味でフェラーリ全車種の中で最も重要な車と言えるかもしれません。限定生産車ということで、当初349台が生産され、その後追加生産で50台、合計で399台のエンツォ・フェラーリが世に送り出されました。ちなみに新車購入価格は、日本円でおよそ8000万円程でしたが、当然ながらその希少性は極めて高く、1億円を超える価格で取引されることもあったようです。いずれにしても、超希少かつフェラーリにとって超重要な意味をもつ「エンツォ・フェラーリ」ですが、なんと日本人のデザイナーがデザインしたものなのです。その名は奥山清行、海外では「Kiyo Okuyama」として活躍されています。奥山氏のデザイナーとしての考え方は子育てや教育等、人を育てる仕事と重なる部分が多いです。

奥山氏のデザインの基本は、機能性（性能）をとことん追求していくと、それは美しさとして形に現れてくるというようなものです。車のデザインをするに当たり、美しさだけを追い求めることはできるけれど、それは外面だけであってすぐに剥がれてしまう、だからこそ、車を運転する人が喜びを感じられるようなデザインを考える、すると結果的に形としての「美」にたどり着くというのです。なるほど、納得です。さて、この機能性を人間の内面として考えてみましょう。内面、即ち心と考えると、容易に理解できるのではないですか。心をとことん磨けば外面、人の立ち居振る舞いや他人への優しさなど、外に現れる部分も光るのではないでしょうか。そして逆も真なりで、どんなに外面を取り繕っても内面が成長していなければ外のメッキはすぐに剥がれるということです。私たちは人間として内面を磨くことに重きをおいていきたいものです。

先日、ある女の子達と話している時、好きな子の話になりました。「すごくカッコいいけど人が嫌がることばかりする人と、普通だけどとても優しくて面白くて真面目な人とどっちを選ぶ?」即答で後者を選んでくれました。

内面を磨くということ、その要素としてどのようなものがあるのでしょうか？　優しさ、慈しみ、勇気、夢、感謝、主体性・協働性、強い体、学力…、挙げれば限りがありませんね。だんらんの話題として如何でしょう。

シリーズ「自分を語る」＃91

9月1日の研修開始まで、ドタバタと日々を過ごしていた私澤田、他にも色々ありました。留学生はブラジル、研修員は韓国、中国、タイ、カンボジア、ペルーと世界各国から来ていましたから、その呼び寄せにも税金が使われます。韓国の研修員は総務省が呼び寄せの主体でしたからそれほど苦労はしませんでした。日本語研修施設から熊本に呼び寄せる時だけ気をもみましたが…。中国からの研修員も、通訳もいましたし県との交流もあってスムーズに呼び寄せることができました。タイとカンボジアの研修員も途中色々ありましたが、何とか呼び寄せることができました。問題はブラジルとペルーの研修員でした。留学生については私の前任者が受け入れまで手続きしていましたので、苦労は感じませんでした。海外技術研修員は8月来日ですので少々厄介です。というのは当時、テロへの警戒が続いていたからです。

2001年9月11日のアメリカ同時多発テロ以来、ニューヨークをはじめとするアメリカの空港はトランジットを含め、出入国に非常に過敏になっていました。研修員を呼び寄せるためにかかる費用も安いに越したことはありません。（国によって旅行事業者の弱い強いの差があるのは、新たな発見でした。）ブラジルからの研修員を呼び寄せるには、ニューヨーク経由が最も安く、合理的なルートでした。しかし、トランジットの際、身元確認に時間がかかるということで、来日が8月1日から数日ずれることが判明したのです。そこで、ニューヨーク経由ではなく、パリ経由で来日させる案で行こうということになったのですが、費用が10万円ほどかさむために、財政課がすんなりOKするはずがありません。案の定「何で一番安いルートではダメなのか?」という問い合わせがあり、そのために数回の財政課詣（もうで）をしました。何とか説明して決裁！　晴れてパリ経由でブラジルからの研修員を呼び寄せることができました。

これまで教育現場しか知らなかった私は、たった半年で「世の中には知らないことがたくさんあるんだなぁ…。」と、改めて感じました。これからは、熊本での研修が、教え子達にとって掛け替えのないものになるように、しっかりコーディネートすることに専念していきます。県内各地に散らばっている教え子達と常に連絡を取り合い、東奔西走の毎日が展開していきます。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）